

はじめに～ iruka オーナーになったあなたへ

iruka をあなたのパートナーとして迎えていただき、ありがとうございます。

あなたは今、すぐに iruka に乗って走り出したいと思ってウズウズしているでしょうね。でもちょっと待って。その前に、このマニュアルに目を通してほしいのです。

「いつもマニュアルなんて読まないよ」その気持ちはわかります。
「メーカーの責任逃れのために、わかりきったことを書いてあるんでしょ」そういった側面も否定はしません。

楽しい読み物ではないかもしれませんが、読んでもらえれば確実に、あなたが無用なトラブルに遭うリスクは小さくなります。

iruka のような折りたたみ自転車は一般的な自転車に比べて可動部が多く、ちょっとした誤解や見落としがより深刻な事故につながりかねません。

また、折りたたみ時のちょっとしたコツ（どちらの手でどの箇所を持つか、など）を知ることで、手早く美しく iruka を折りたたむことができるようになります。
指を挟んだりといったアクシデントも避けられます。

もし「こんな情報も載せた方がいい」と思うことがあったら、電子メールで知らせていただけたらうれしいです (info@iruka.tokyo)。改訂の際に参考にします。

それでは、あなたと iruka が一緒に楽しい時間を過ごせますように！

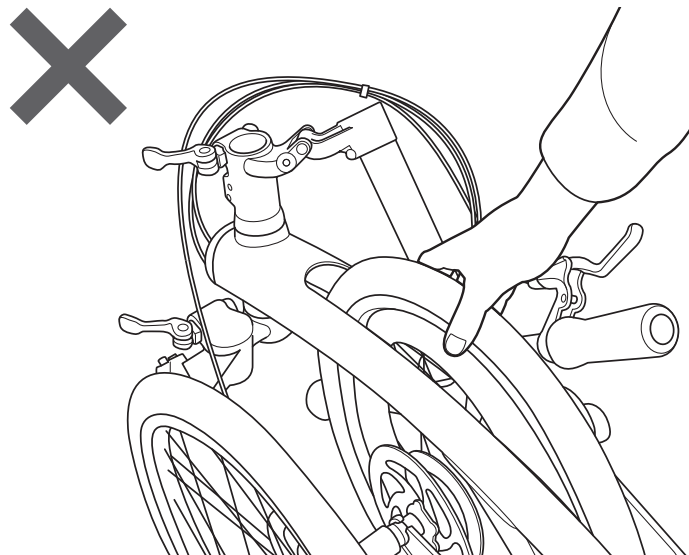
株式会社イルカ
創業者／代表取締役 小林正樹

特にご注意ください

以下の 2 点は、iruka の構造上、安全に使用するために特に気をつけていただきたい事項です。
その他の安全上の注意は iruka オーナーズマニュアルをご覧ください。

⚠ 警告

- ❌ 折りたたんだ状態で後輪をつかんで持ち上げない。
後輪が回転し、指がフレームと後輪の間に挟まってケガをする恐れがあります。
(後輪に指が通らないよう、出荷時はホイールカバーが付属しています)



⚠ 警告

! 乗車する前に以下の箇所を点検する。

■ カムレバー（下図の 5 箇所）

自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めているか確認する。

締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。

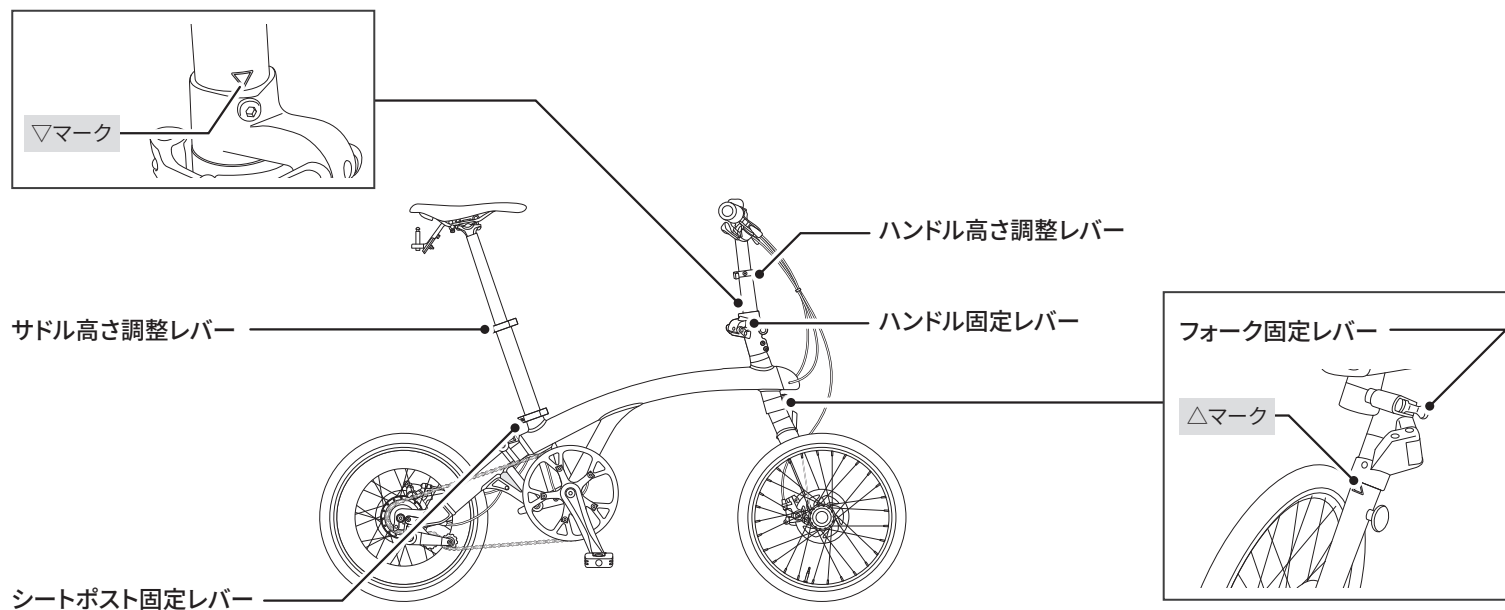
（目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です）

レバーが弱い力で閉まってしまう場合は、最適な固さになるように調整してください。

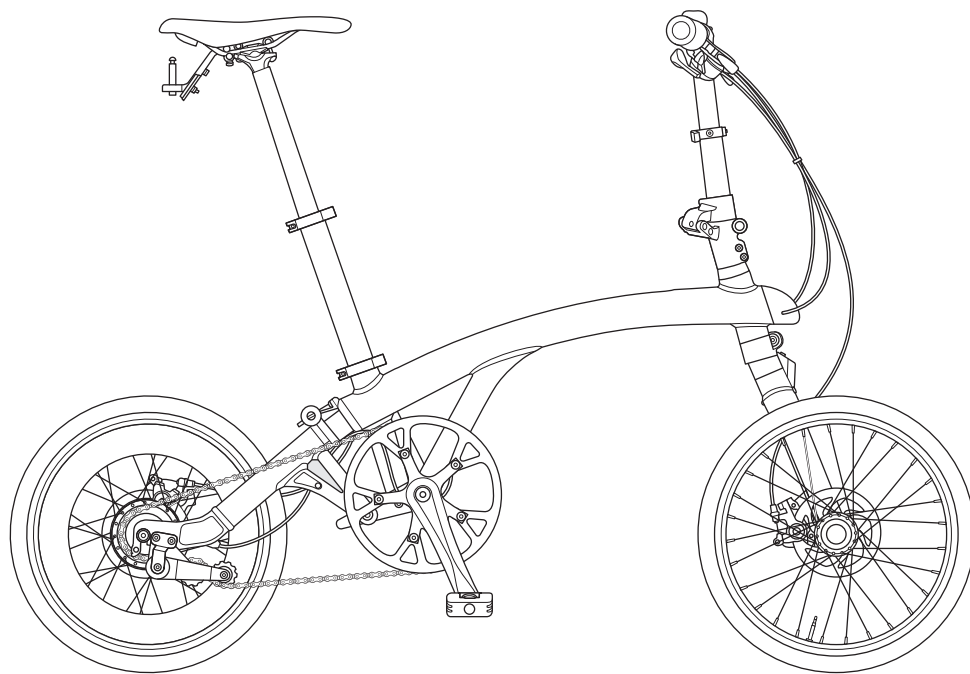
■ 差し込み部分（下図の 2 箇所）

△マークが接合部のふちにくるまで差し込まれているか確認する。

差し込みが浅い場合、ロックが効かず抜ける可能性があります。



iruka オーナーズマニュアル 保証書付



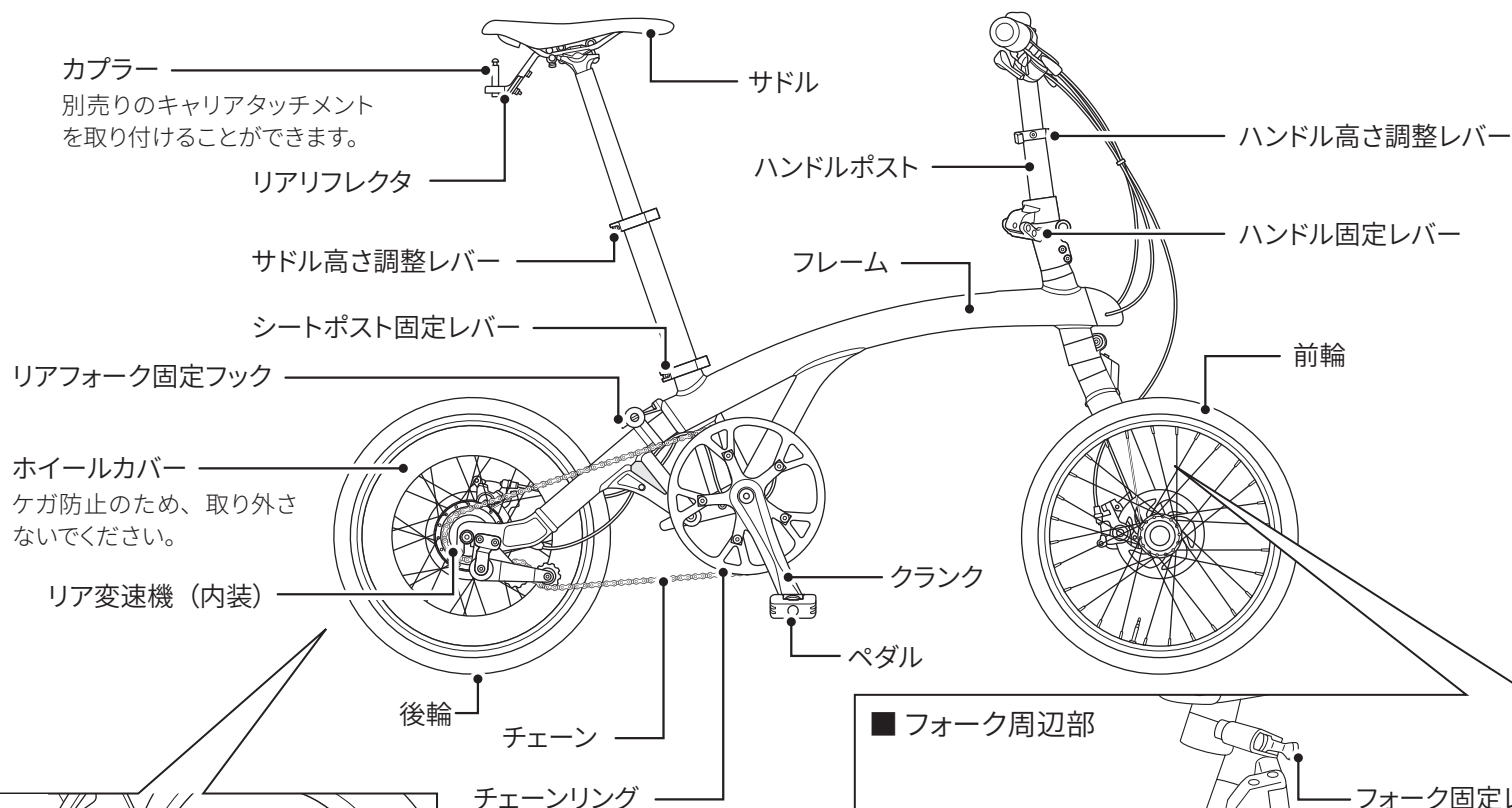
● モデルによって一部パーツの形状が異なることがあります。

目次

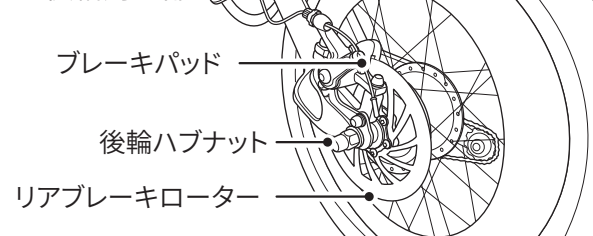
各部の名称とはたらき	2
安全上のご注意	4
乗車前の点検	9
点検箇所	9
点検内容	10
乗り方	13
変速の仕方	13
ブレーキのかけ方	14
折りたたみと展開	15
モードについて	15
折りたたみ	16
「ラン」 → 「ウェイト」	16
「ウェイト」 → 「ウォーク」	18
「ウォーク」 → 「スリープ」	22
展開	24
「スリープ」 → 「ウォーク」	24
「ウォーク」 → 「ウェイト」	26
「ウェイト」 → 「ラン」	30
メンテナンス／保管／廃棄について	31
注油について	31
グリスングについて	32
日常のお手入れ	33
定期点検	33
保管について	33
廃棄について	33
保証書	36

各部の名称とはたらき

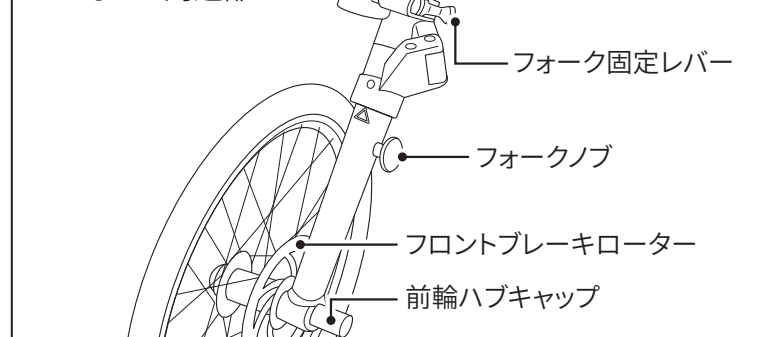
■ 本体側面



■ 後輪周辺部



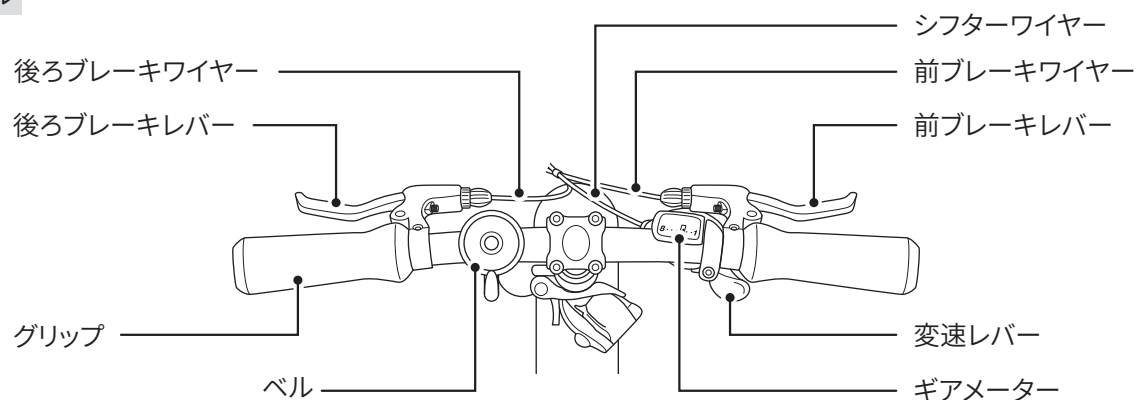
■ フォーク周辺部



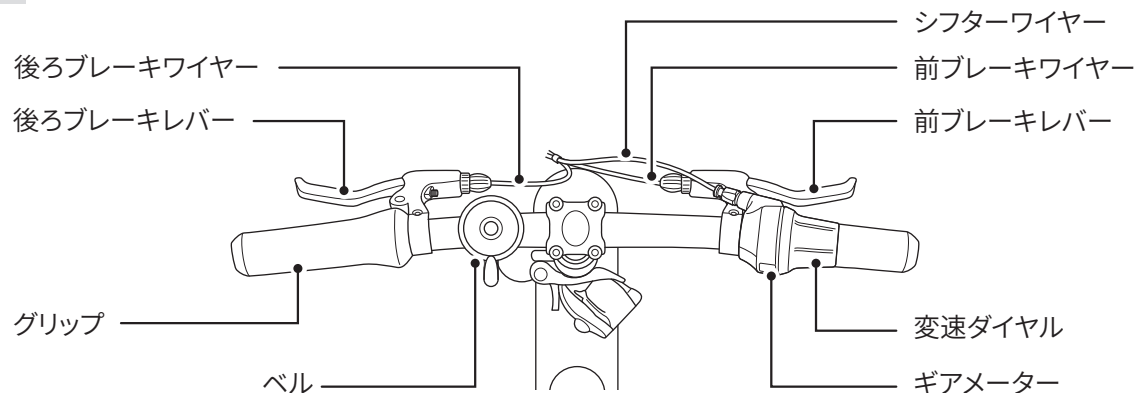
各部の名称とはたらき (続き)

■ ハンドル部

トリガーシフト搭載モデル



ダイヤルシフト搭載モデル



■ 付属品

取扱説明書 / 保証書 (本書)

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。



警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷^{※1}を負うことが想定される危害の程度を示しています。



注意

取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷^{※2}を負うことが想定されるか、または物的損害^{※3}の発生が想定される危害・損害の程度を示しています。

※1 重傷とは失明、ケガ、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをいう。

※2 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないケガ、やけど、感電などをいう。

※3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指す。

●次の絵文字で、お守りいただきたい内容を説明しています。



してはいけない「禁止」内容です。



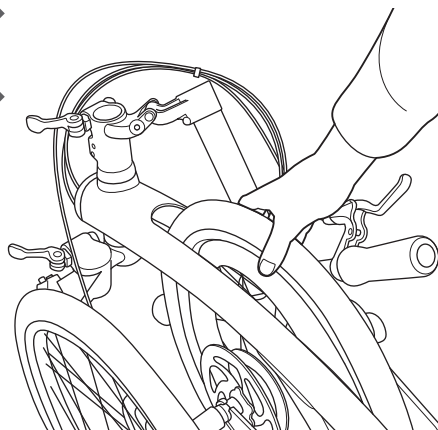
必ず実行していただきたい「強制」内容です。

警告



折りたたんだ状態で後輪をつかんで持ち上げない

後輪が回転し、指がフレームと後輪の間に挟まってケガをする恐れがあります。
(後輪に指が通らないよう、出荷時はホイールカバーが付属しています)



安全上のご注意 (続き)

⚠ 警告

❗ 乗車する前に以下の箇所を点検する。

■ カムレバー (下図の 5 箇所)

自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めているか確認する。

締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。

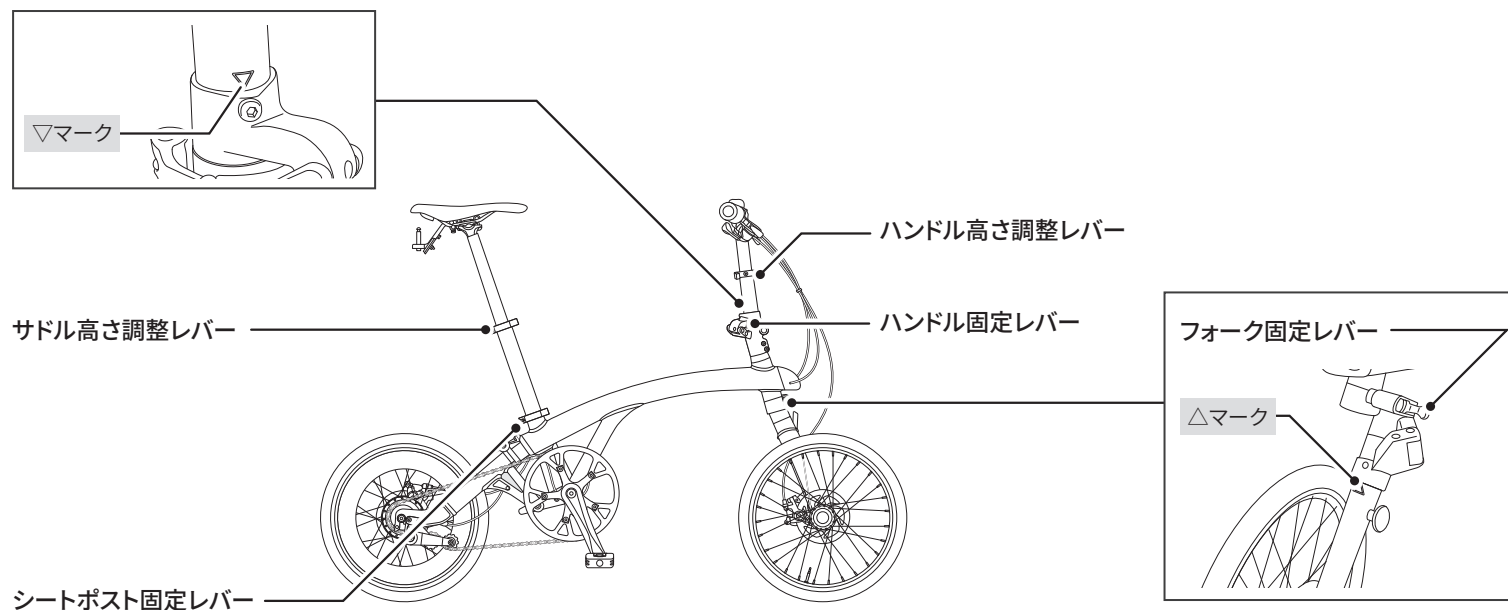
(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)

レバーが弱い力で閉まってしまう場合は、最適な固さになるように調整してください。

■ 差し込み部分 (下図の 2 箇所)

△マークが接合部のふちにくるまで差し込まれているか確認する。

差し込みが浅い場合、ロックが効かず抜ける可能性があります。



安全上のご注意 (続き)

⚠ 警告



分解
禁止

お客さまご自身による改造はしない。

部品が損傷したり、ブレーキが効かなくなって、転倒し、ケガをする恐れがあります。修理や部品の取り付けは販売店にご相談ください。また、補助輪も取り付けないでください。



使用を開始してから 2 カ月以内に必ず点検をおこなう。

- 必ず、取扱説明書をよく読んでから点検してください。
- わからないときは、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

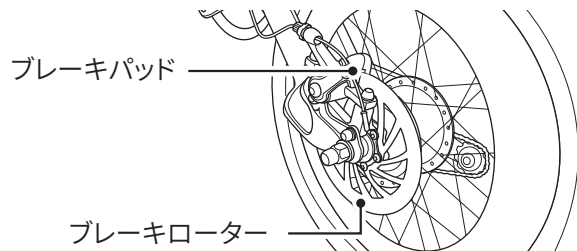


自転車を走行以外の目的（腰かけや踏み台の代わりなど）に使用しない。

転倒してケガをする恐れがあります。

ブレーキローターやブレーキパッドには絶対に注油しない。

ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガをする恐れがあります。



乗車前は、取扱説明書に記載の箇所を点検する。

転倒し、事故の原因になります。
点検箇所は本書の 9 ページを参照してください。



1 年ごとに以下の点検・交換をおこなう。

ブレーキが効かなくなったり、スリップしやすくなったりして転倒の原因になります。

● ブレーキワイヤー

異常がなくても 2 年に 1 回は交換してください。交換はお買い上げいただいた販売店または修理店にご依頼ください。

● ブレーキレバー

遊びが大きいときは、すぐに調節をしてください。→ 10 ページ

● チェーン

たるみが大きいときは、すぐにお買い上げいただいた販売店または修理店に交換をご依頼ください。走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。

● タイヤ

溝があるタイヤを使用している場合は、接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換してください。

● ブレーキパッド

ブレーキレバーの調整をしてもブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキを掛けたときに異音が出る場合は、ブレーキパッドが摩耗している可能性があります。お買い上げいただいた販売店または修理店で交換してください。



ガタツキ・緩み・変形・ひび割れなどの異常がある場合は乗らない。

異常があるまま走行すると事故や転倒してケガをする恐れがあります。異常を発見したら販売店にご相談ください。変形したり、ひび割れた部品は必ず交換してください。



サドルやハンドルの高さを調整した後は、カムレバーを確実に固定してから乗る。

乗車中にサドル、ハンドルが外れて転倒し、ケガをする恐れがあります。
高さ調整後は、カムレバーを自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めてください。（目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です）
レバーが弱い力で閉まってしまう場合は、最適な固さになるように調整してください→ 11 ページ。

乗車するときは、自転車用ヘルメットを着用する。

ヘルメットは頭部の保護のために有効です。

安全上のご注意 (続き)

⚠ 警告

❌ 傘やステッキ、釣りざおなどを下げたり、差し込んだりして乗らない。また、スポークの間にボールなどを挟まない。

車輪がロックして転倒する恐れがあります。

組み立て前の自転車や未調整の自転車に乗らない。

通常の運転ができず転倒したり、衝突してケガをする恐れがあります。

カーブを走行するときには、曲がる側のペダルを下げない。

ペダルが地面と接触して転倒する恐れがあります。

スピードを出し過ぎたまま、急ハンドル操作をしたり、急カーブを曲がったりしない。

スリップして転倒する恐れがあります。

乱暴に運転したり、アクロバットの様な乗り方をしない。

フレームや車輪が損傷して、転倒や事故の原因になります。

❗ 自動車の横を走行するときには安全を確認する。

駐車や停車中の車が急にドアを開けたり、車の陰から人や動物が出てきたりすることがあり、事故の原因になります。

🚫 回転している部分（車輪、チェーンなど）には手や足、物を近づけない。

巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。

❌ 夜間・トンネル内・霧発生時など視界が悪いときは、無灯火で乗らない。

見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。また、第三者から見えにくくなり危険です。ライトがつかないときやリアリフレクタが破損したり、汚れていたりする場合は、押して歩いてください。

以下のような運転はしない。

- 携帯電話やスマートフォンなどの機器を操作しながらの運転
 - イヤホンやヘッドホンで音楽などを聞きながらの運転
 - 傘をさしながらの運転
- 事故の原因になります。

❌ 荷物を手やハンドルに引っ掛けたり、ペットをつないだりして乗らない。

荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩したりして転倒し、ケガをする恐れがあります。

飲酒時やかぜ薬を服用したとき、体調が悪いときは乗らない。

衝突や転倒によるケガの恐れがあります。

土踏まずやかかとでペダルを踏まない。

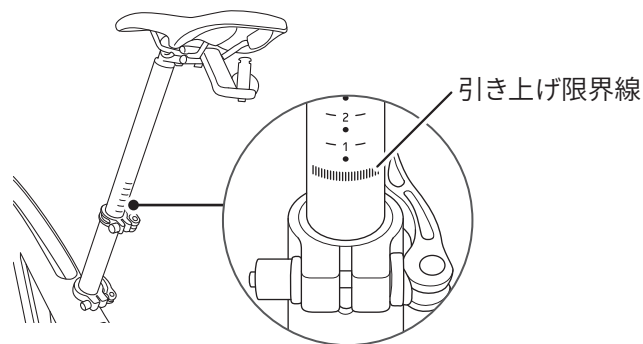
カーブなどでハンドルを切ったときにつま先が前車輪に当たり、転倒する恐れがあります。

下り坂や雨の日、ぬれた路面ではスピードを出しすぎない。

スリップしたり、ブレーキ性能の低下により制動距離が長くなり、転倒や事故の原因になります。

サドルやハンドルの引き上げ限界線が見える状態では乗らない。

サドルやハンドルが折れたり、抜けたりして、事故の原因になります。



安全上のご注意 (続き)

⚠ 警告



滑りやすい靴や、かかとの高い靴などをはいて乗らない。
足がペダルから外れたりして、転倒する恐れがあります。

2人以上で乗らない。また、ハブステップなどの突出物も装着しない。

転倒したり、事故の恐れがあります。

前ブレーキだけのブレーキ操作はしない。

転倒する恐れがあります。

巻き込まれやすい服装で乗らない。

スラックスやスカートのすそ、マフラーなどが車輪やギヤに巻き込まれ、転倒する恐れがあります。

ズボンクリップの使用をおすすめします。

滑りやすいところ（積雪、凍結した道、鉄板の上やぬかるみなど）では乗らない。また、風の強いときも乗らない。

前輪や後輪がスリップして転倒し、ケガをする恐れがあります。

この場合は、自転車から降りて、押して歩いてください。

凹凸の激しい場所を走らない。



走行中に異音が発生したり、激しい転倒や衝撃を与えた場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店に相談する。

そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。

⚠ 注意



ホイールカバーを外さない。

外すと畳んだときにホイールとフレームの間に手が挟まるなど、ケガの原因になります。

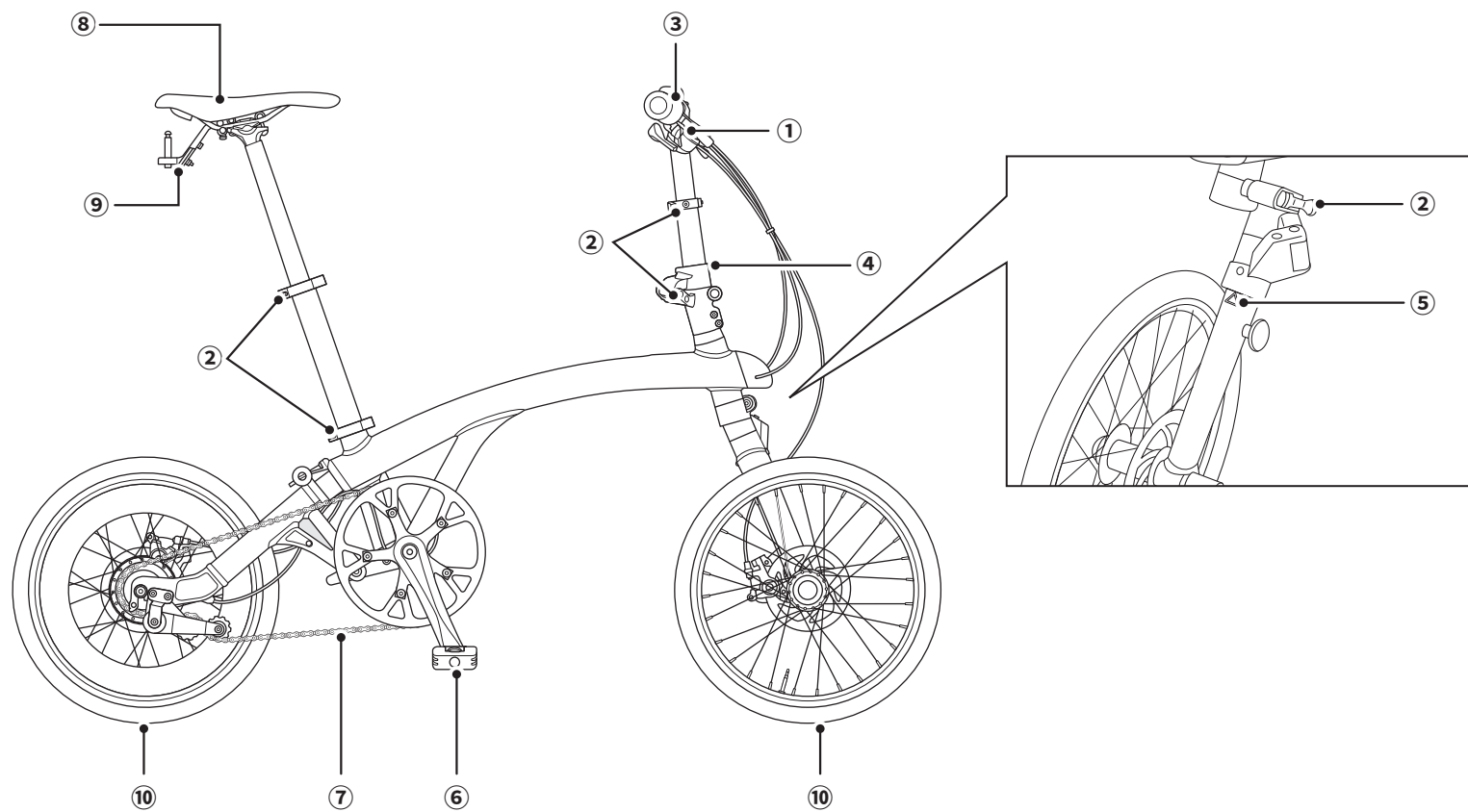
適応身長・適応体重の目安

乗車適応身長 130 ～ 185cm（股下寸法 60 ～ 84cm）

乗車適応体重 100kg 程度まで（積載荷物含む）

乗車前の点検

点検箇所



乗車前の点検 (続き)

点検内容

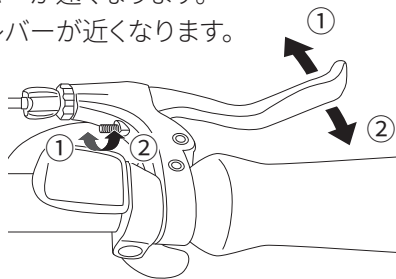
① ブレーキレバー

- ブレーキレバーを握り、ブレーキレバーがハンドルに触れる前に確実にブレーキが効くことを確認します。
- ブレーキレバーをいっぱいまで握っても効きが悪いときは、右記ブレーキの引きしろ調整をします。
- ハンドルとブレーキレバーの距離は下記の方法で調整することができます。

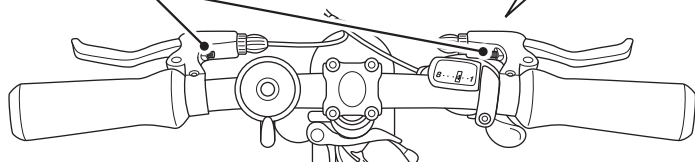
ブレーキレバー距離の調整方法

レバー調整ネジを六角レンチで回します。

- ① 時計回り・・・レバーが遠くなります。
- ② 反時計回り・・・レバーが近くなります。

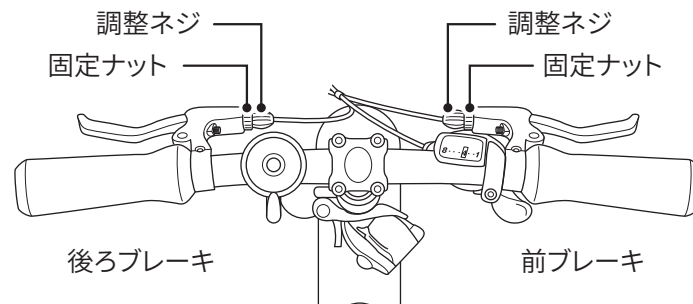


レバー調整ネジ



ブレーキの引きしろ調整方法

- ① 固定ナットを反時計回りに回して緩めます。
- ② 調整ネジを反時計回りに回して少し緩めます。
- ③ 固定ナットを時計回りに回して締めます。
- ④ ブレーキレバーを握ってブレーキが効くか確認します。
- ⑤ まだ効きが悪い場合は、①～④の手順を繰り返します。



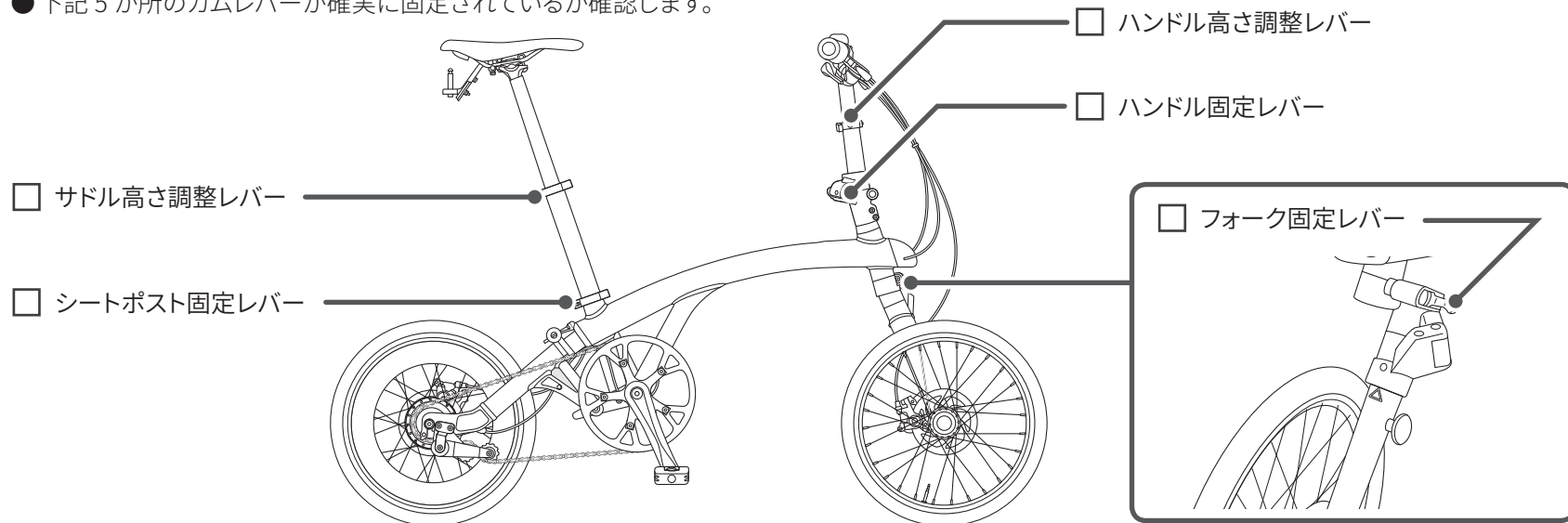
- 上記ブレーキの引きしろ調整をしてもブレーキの効きが悪い場合は、乗車せず販売店に修理をご相談ください。

乗車前の点検 (続き)

点検内容 (続き)

③ カムレバーの固定

● 下記 5 か所のカムレバーが確実に固定されているか確認します。

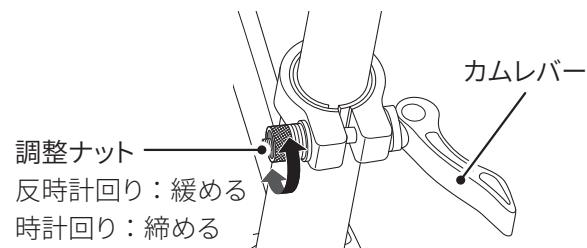


警告

カムレバーは自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めてください。
締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。
(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)
レバーが弱い力で閉まってしまう場合は、最適な固さになるように調整してください。

カムレバーの調整方法

固定レバーが弱い力で閉まってしまう場合は、調整ナットを少しずつ時計回りに回して、レバーを倒すことができる範囲で最大の固さになるように調整します。
(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)



乗車前の点検 (続き)

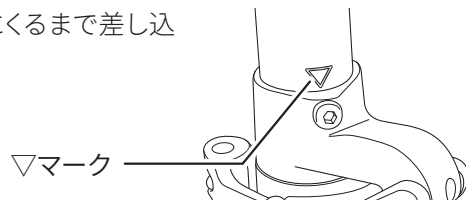
点検内容 (続き)

③ ハンドル

- 前後左右に揺すってガタツキがないか確認します。
- ハンドルがタイヤに対して直角になっているか確認します。
- ハンドルが低すぎる、高すぎる場合は、ハンドル調整レバーを開いて、最適な高さに調整します。

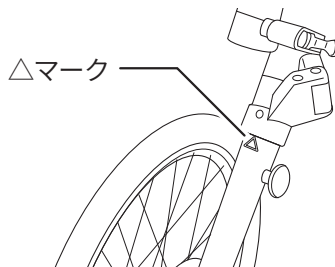
④ ハンドルポスト接合部

- ▽マークが接合部のふちにくるまで差し込まれているか確認します。



⑤ フロントフォーク

- △マークまで差し込まれているか確認します。



⑥ ペダル

- ガタツキがないか確認します。

⑦ チェーン

- たるみすぎていないか確認します。
チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり危険です。すぐに販売店や修理店で調整を受けてください。
- ペダルを回したときに空回りしていないか確認します。

⑧ サドル

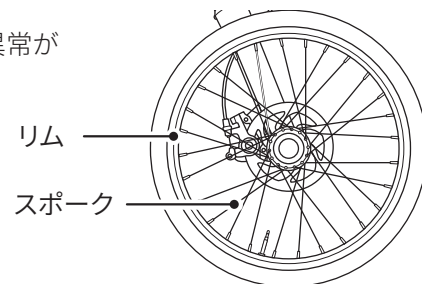
- 前後左右に揺すってガタツキがないか確認します。
- 位置が高すぎる、または低すぎる場合は、サドル高さ調整レバーを開いて高さを調整します。

⑨ リアリフレクタ

- 汚れや損傷がないか確認します。

⑩ タイヤ

- 摩耗や損傷していたり、切れ目が入っていないか確認します。
- 適切な空気圧が入っているか確認します (空気圧はタイヤ側面に記載されています)。
- リムやスポークに変形などの異常がないか確認します。



乗り方

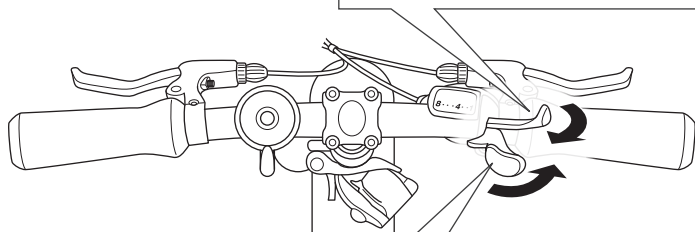
変速の仕方

クランクを回転させながら、変速レバーを操作します。

● クランクを逆回転させながら変速レバーを操作しないでください。

トリガーシフト搭載モデル

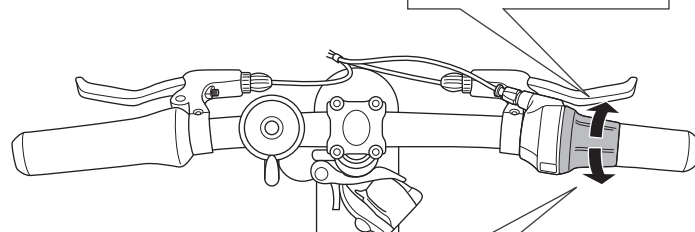
右手人差し指で奥のレバーを引く
→ギアを上げる
ペダルが重くなります。



右手親指で手前のレバーを押す
→ギアを下げる
ペダルが軽くなります。

ダイヤルシフト搭載モデル

ダイヤルを奥に回す
→ギアを上げる
ペダルが重くなります。



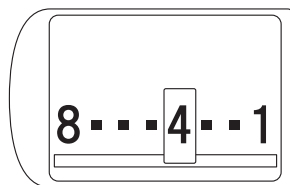
ダイヤルを手前に回す
→ギアを下げる
ペダルが軽くなります。

ギアメーターの見方

現在のギア数が表示されます。

数字が高くなるほどペダルが重くなり、ペダル1回転ごとに進む距離が大きくなります。

トリガーシフトモデル（8速）の場合



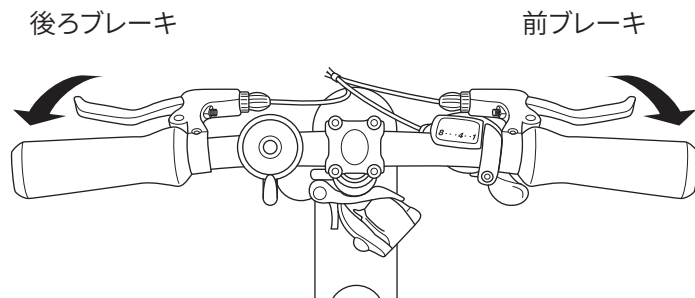
ダイヤルシフトモデルの場合



乗り方 (続き)

ブレーキのかけ方

左（後ろ）ブレーキをかけてから右（前）ブレーキをかけます。



⚠ 警告

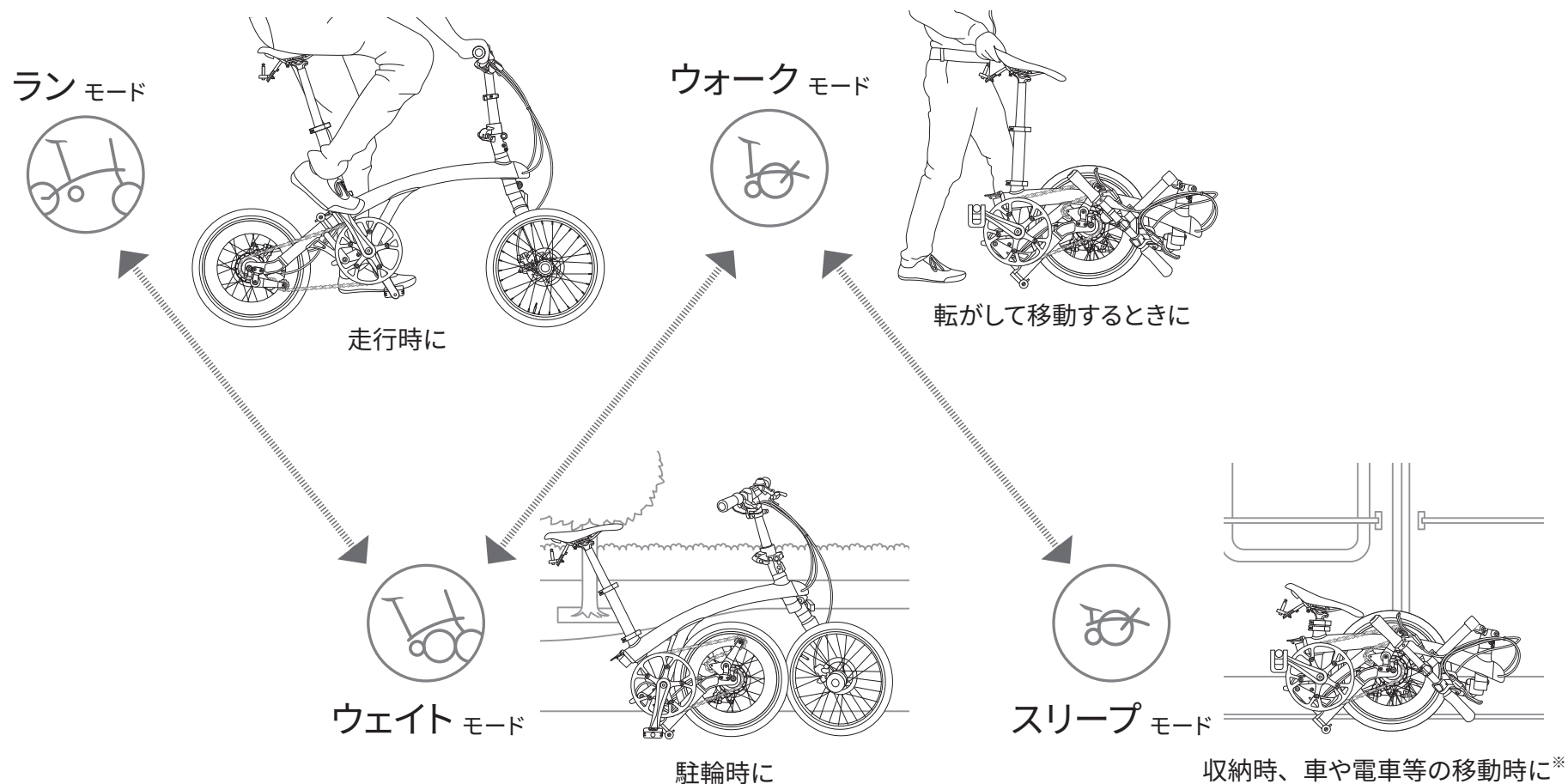


前ブレーキを強くかけすぎない。
前輪がロックし、転倒する恐れがあります。

折りたたみと展開

モードについて

本製品はシーンに合わせて4つの状態に変形することができます。



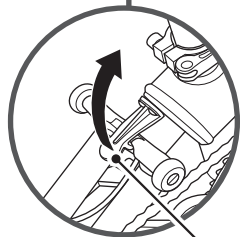
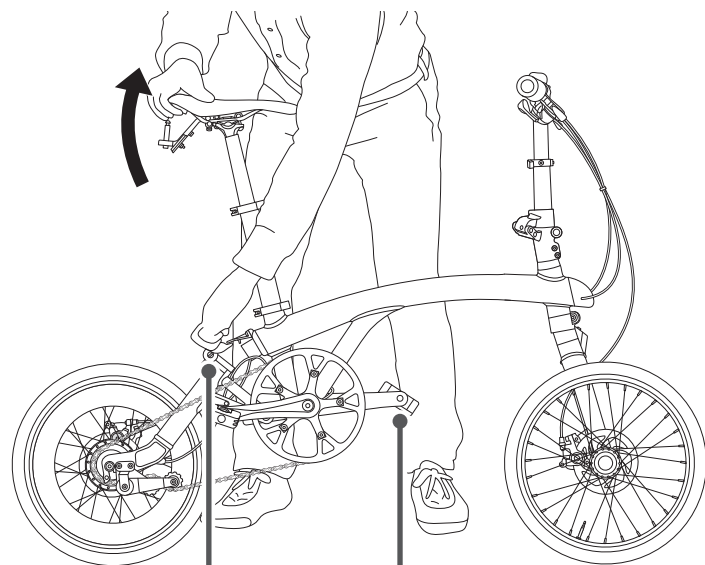
※ 日本ではほとんどの鉄道路線で列車内に自転車を持ち込む際には折りたたんで輪行バッグに入れる必要があります。また、駅構内においても輪行バッグに入れるよう要請されることがあります。

折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ

ラン モード  ▶ ウェイト モード 

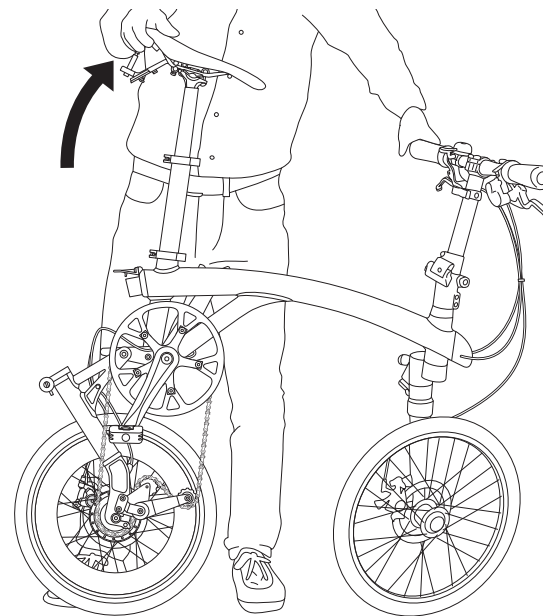
- 1** 左手でリアフォーク固定フックを持ち上げながら、右手でサドルを少し持ち上げます。



スリープまで折りたたむ場合は、左側のクランクを9時から10時の間の位置にしておく、折りたたみやすくなります。

リアフォーク固定フック

- 2** そのまま後輪が内側に折りたたまれるまでサドルを持ち上げます。

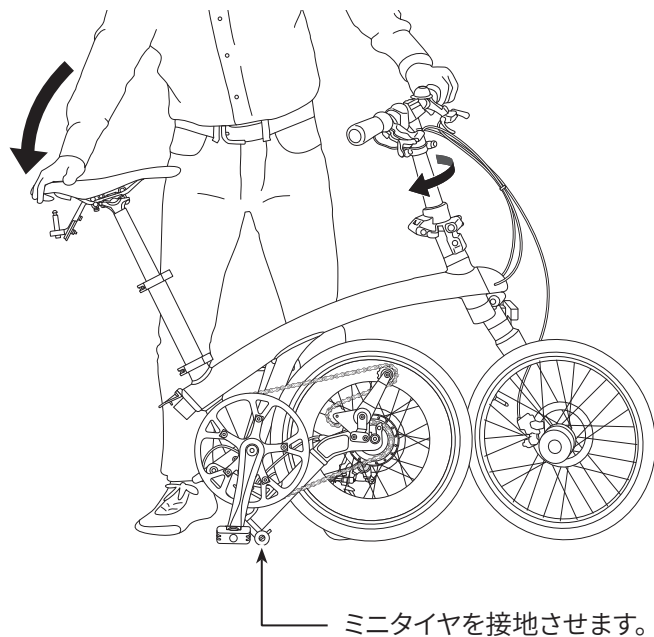


折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

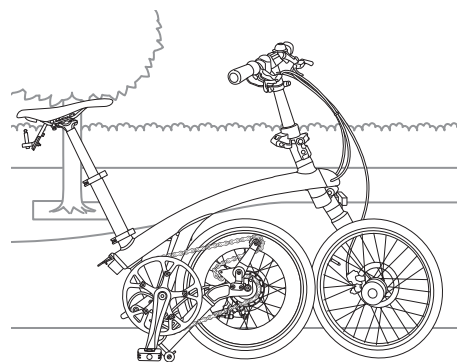
ラン モード  ▶ ウェイト モード 

3 ハンドルを右に少し切りながらサドルを下げます。



ウェイト モード 

スタンドなしで自立します。



折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

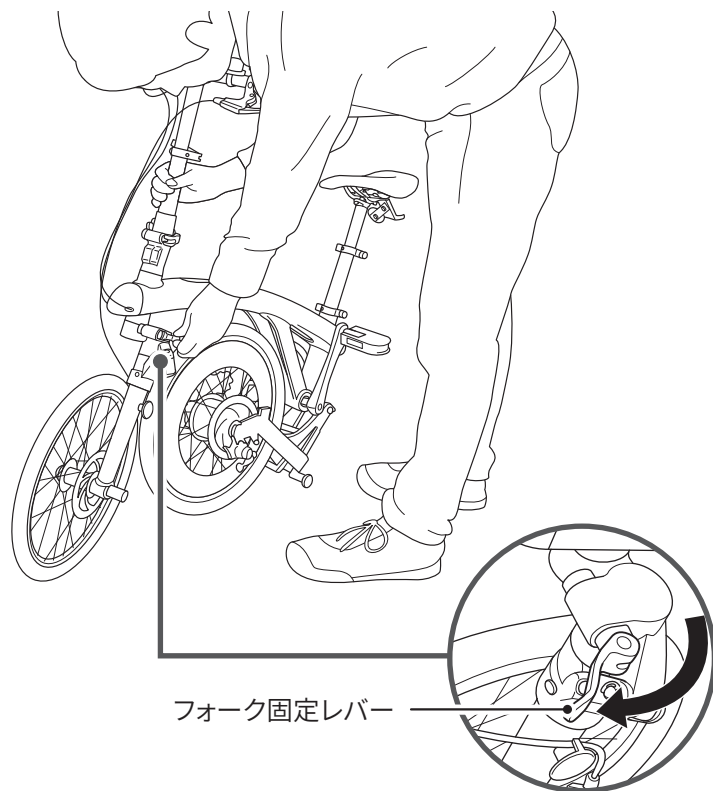
ウェイト モード



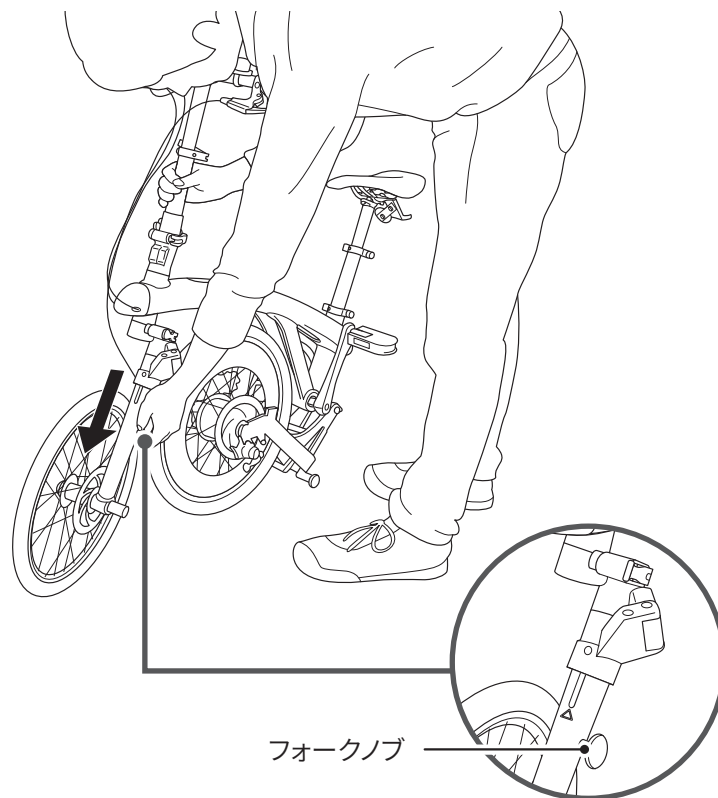
▶ ウォーク モード



- 1** ハンドルポストを右手で支えながら、左手でフォーク固定レバーを開きます。



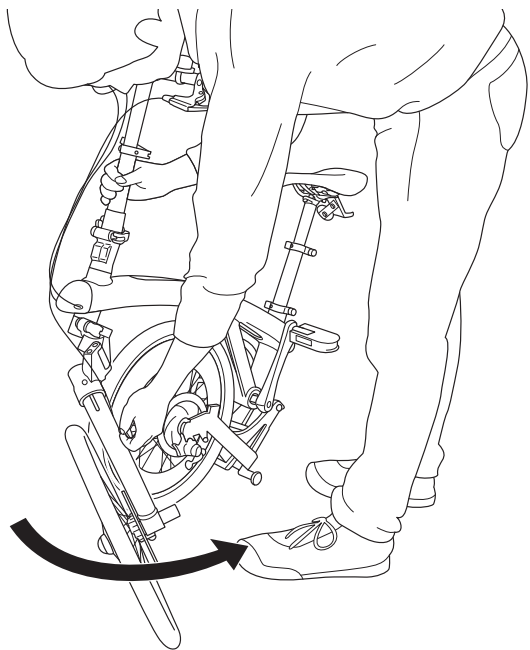
- 2** 左手でフォークノブを持ち、フォークを引き抜きます。



折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

- 3** 右手でハンドルポストを支えながら、左手でフォークを折りたたみます。



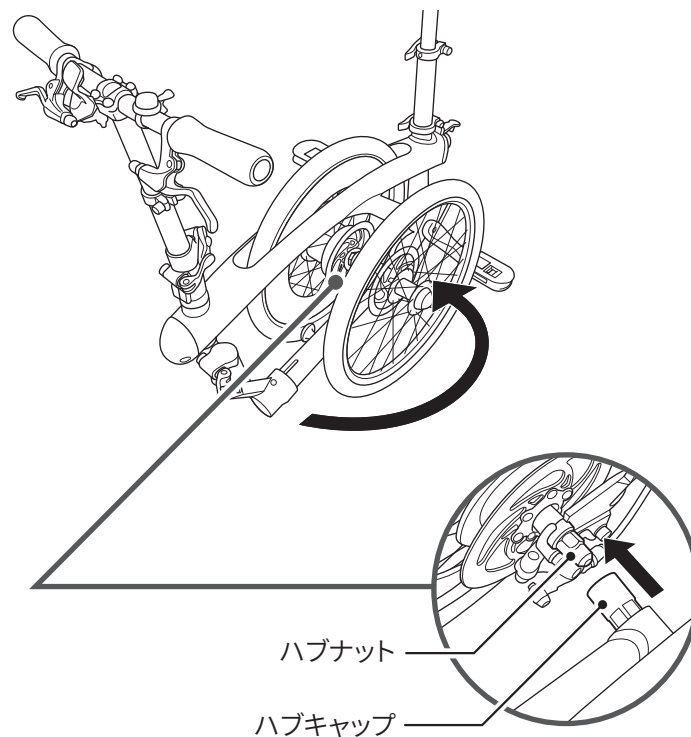
ウェイト モード



▶ ウォーク モード



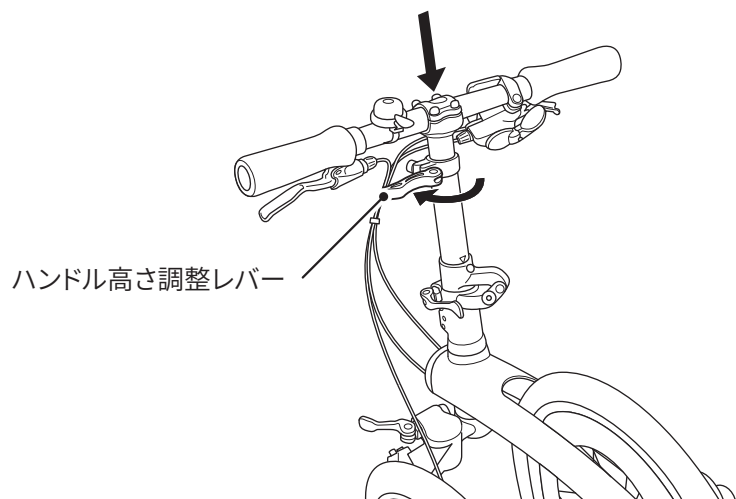
- 4** 後輪ハブナットに前輪ハブキャップをかぶせて合わせます。
前輪ハブキャップは磁石を内蔵しているため、近づけるとくっつきます。



折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

- 5** ハンドル高さ調整レバーを開いてハンドルの高さを一番低くします。
低くしたあとは、ハンドル高さ調整レバーを閉めてください。



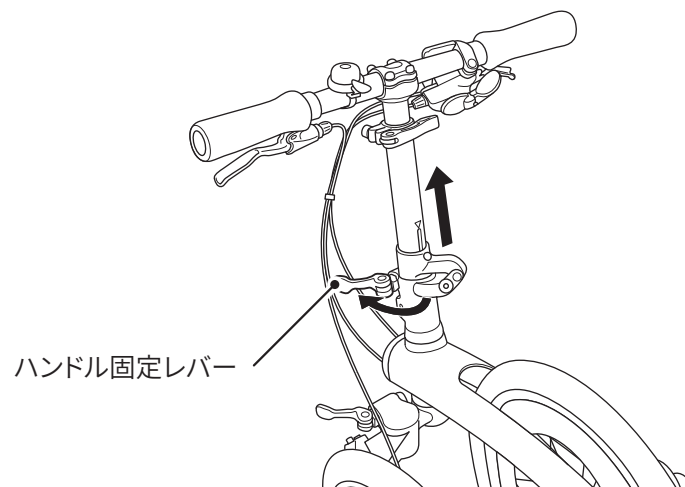
ウェイト モード



▶ ウォーク モード



- 6** ハンドル固定レバーを開き、ハンドルポストを引き抜きます。



折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

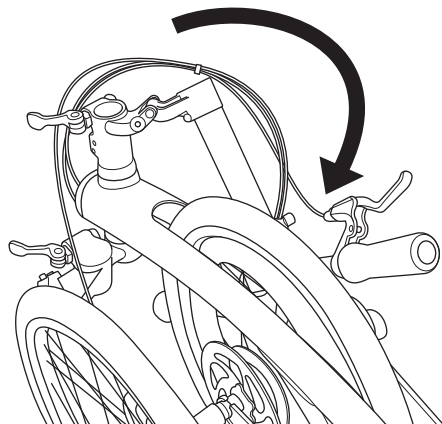
ウェイト モード



▶ ウォーク モード



7 ハンドルポストを折りたたみます。

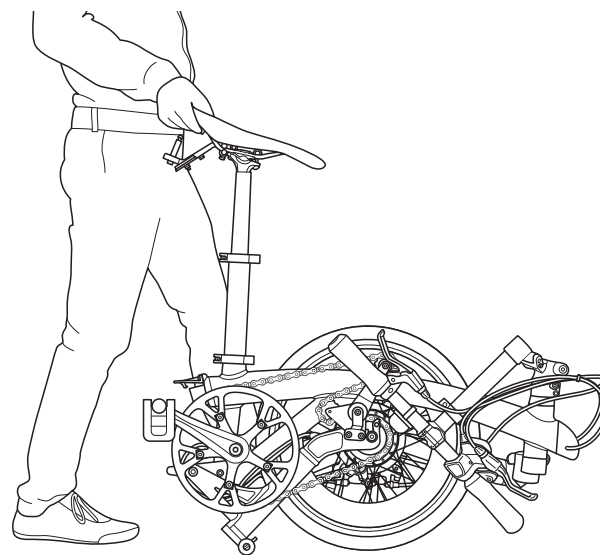


ウォーク モード



サドルを持って転がすことができます。

※ 後退するとクランクが回転して先端が床面に当たります。



折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

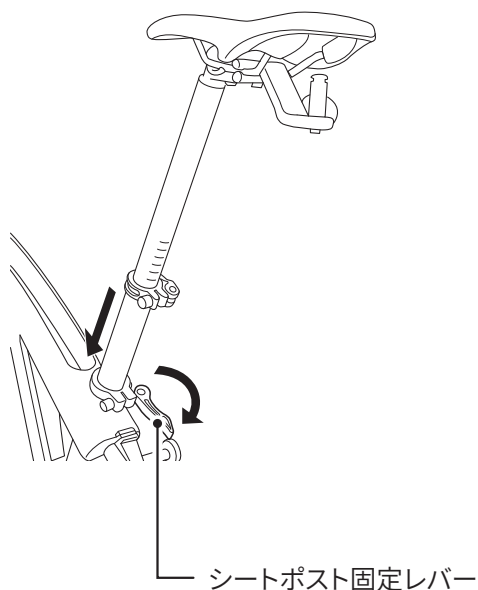
ウォーク モード



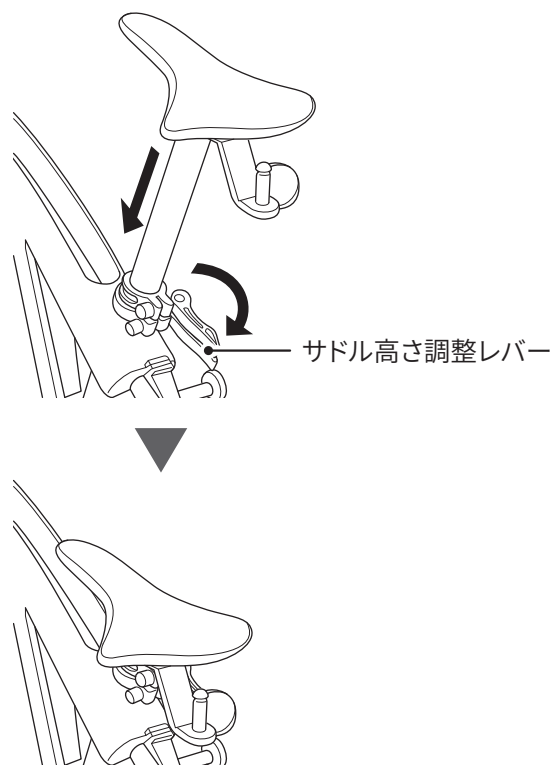
▶ スリープ モード



- 1** シートポスト固定レバーを開き、シートポストを収納します。

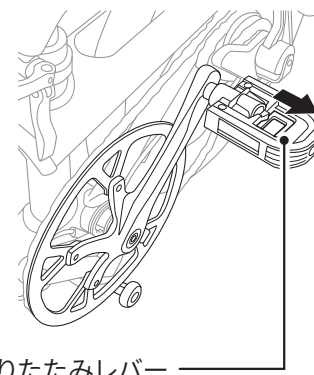


- 2** サドル高さ調整レバーを開き、サドルを一番下まで下げます。

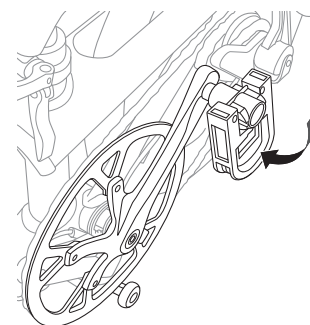


- 3** 両側のペダルを折りたたみます。

① ペダル折りたたみレバーを引きながら、



② ペダルをたたみます。



折りたたみと展開 (続き)

折りたたみ (続き)

ウォーク モード



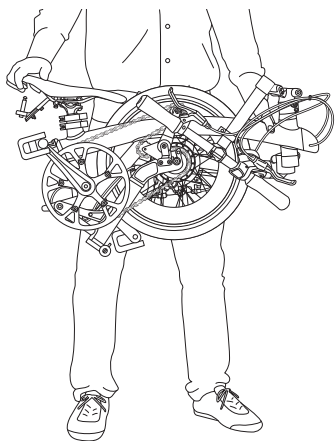
▶ スリープ モード



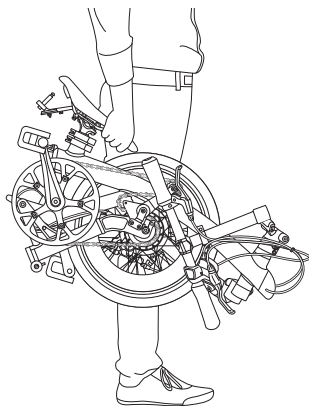
スリープ モード



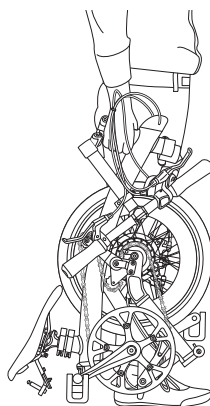
推奨の持ち運び方



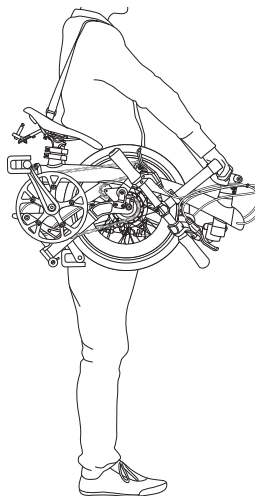
前端と後端を両手で
抱えて持つ



サドル先端を持つ



ハンドルポスト根元
を持つ



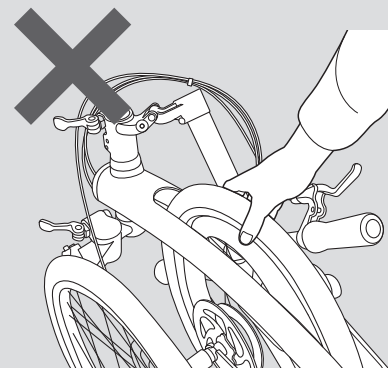
輪行用ベルトで
前後を固定して持つ

⚠ 警告



折りたたんだ状態で後輪をつ
かんで持ち上げない

後輪が回転し、指がフレームと後輪の
間に挟まってケガをする恐れがあります。
(後輪に指が通らないよう、出荷時は
ホイールカバーが付属しています)



折りたたみと展開 (続き)

展開

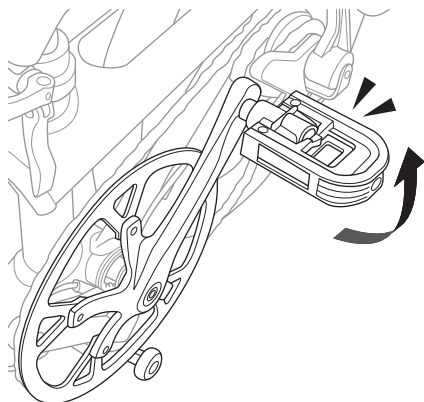
スリープ モード



▶ ウォーク モード

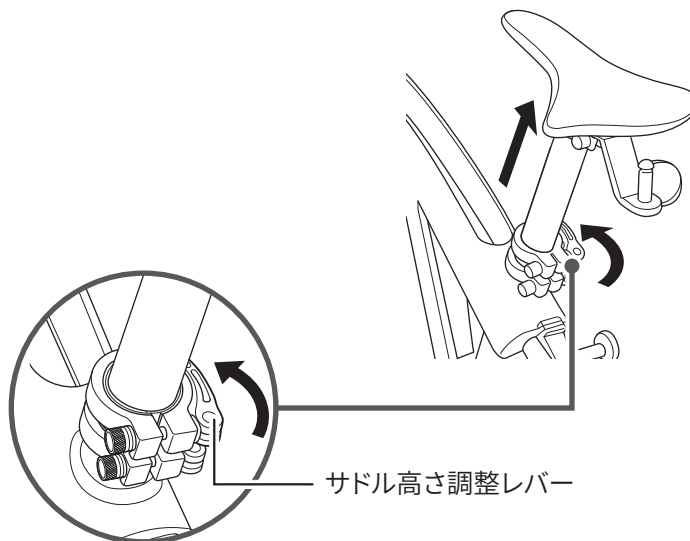


- 1** 両側のペダルを組み立てます。



左右両側ともペダルをカチッと音がするまで持ち上げます。
確実に固定されていることを確認してください。

- 2** サドル高さ調整レバーを開いてサドルの高さを調整し、
サドル高さ調整レバーを閉めます。



⚠ 警告



カムレバーは自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めてください。
締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。
(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)

折りたたみと展開 (続き)

展開 (続き)

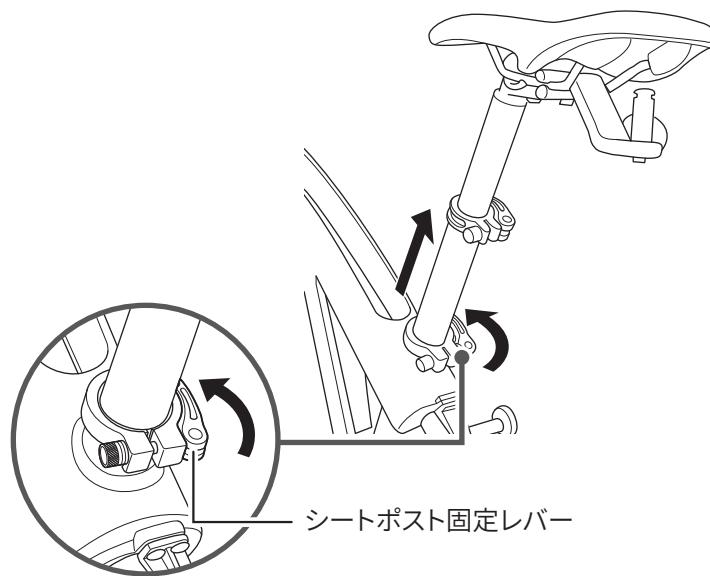
スリープ モード



▶ ウォーク モード



- 3** シートポスト固定レバーを開いてシートポストを一番上まで引き上げ、シートポスト固定レバーを閉めます。



警告



カムレバーは自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めてください。
締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。
(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)

折りたたみと展開 (続き)

展開 (続き)

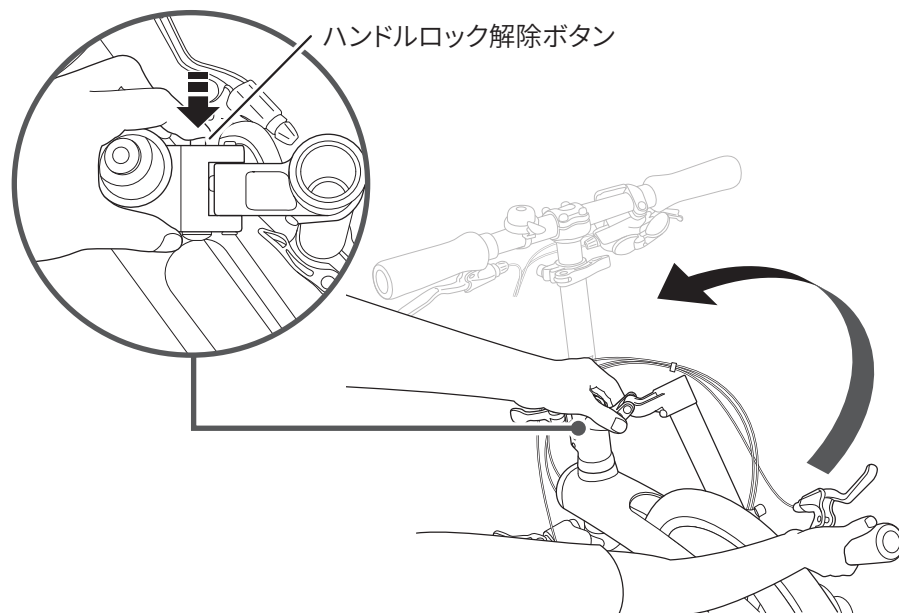
ウォーク モード



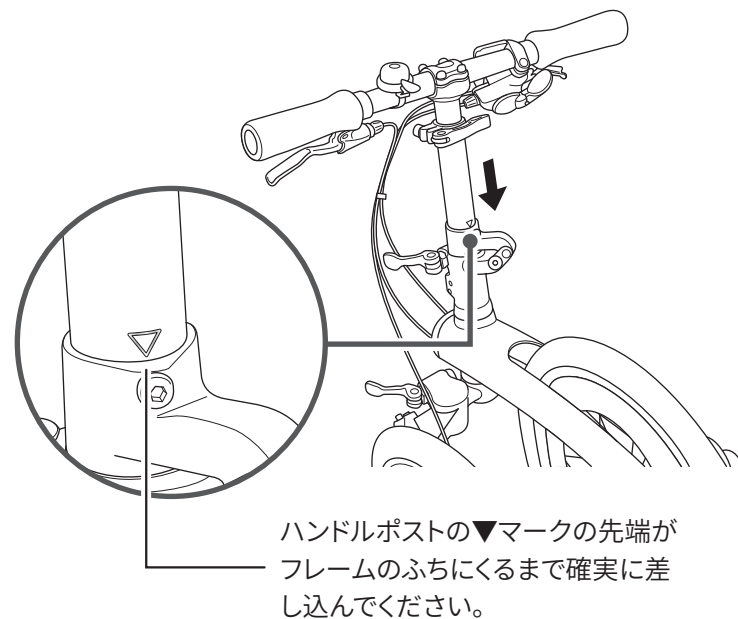
▶ ウェイト モード



1 ハンドルロック解除ボタンを押しながら、ハンドルを起こします。



2 ハンドルポストをフレームに差し込みます。



⚠ 注意

! ハンドルを起こすときは、手を挟まないように注意してください。

⚠ 警告

! ハンドルポストは奥まで確実に差し込んでください。
差し込みが不十分だと走行中に外れて事故の原因になります。

折りたたみと展開 (続き)

展開 (続き)

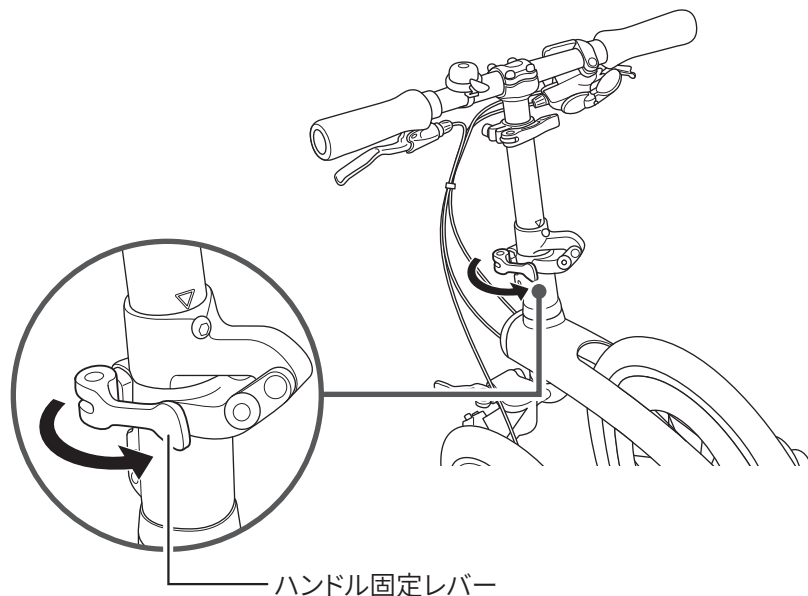
ウォーク モード



▶ ウェイト モード

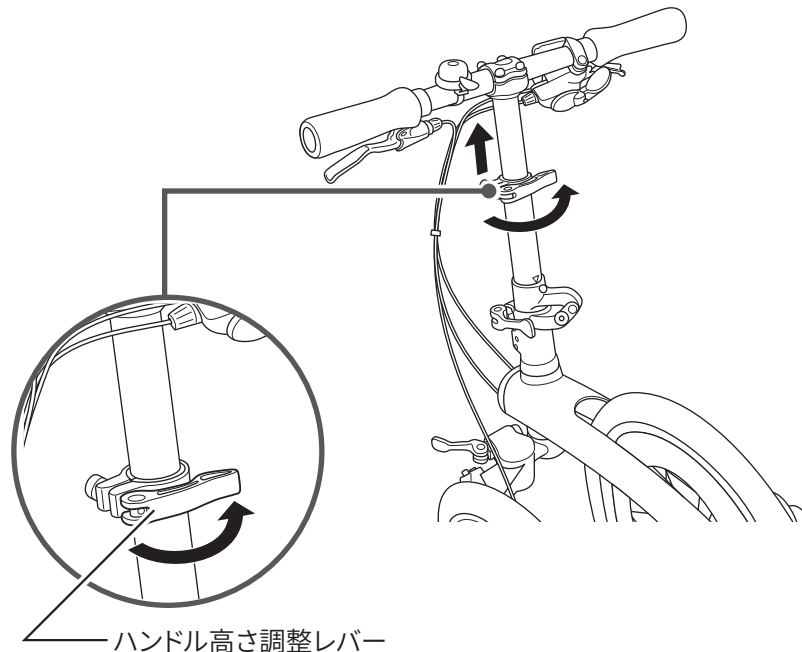


3 ハンドル固定レバーを閉めます。



ハンドル固定レバー

4 ハンドルの高さを調整し、ハンドル高さ調整レバーを閉めます。



ハンドル高さ調整レバー

⚠ 警告



カムレバーは自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めてください。

締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。

(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)

折りたたみと展開 (続き)

展開 (続き)

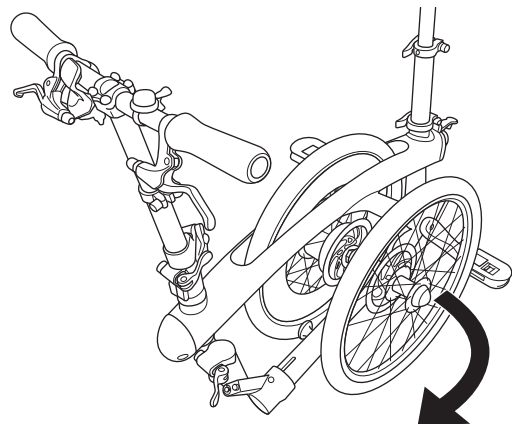
ウォーク モード



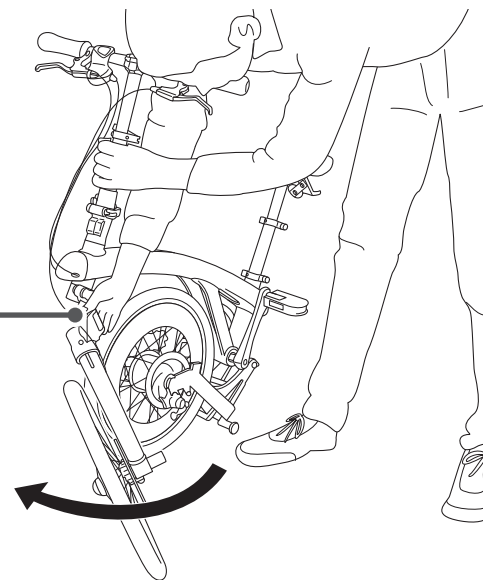
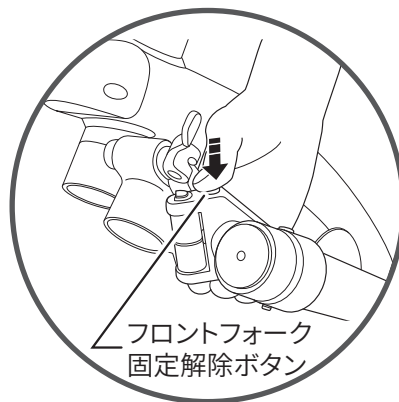
▶ ウェイト モード



5 前輪と後輪を引き離します。

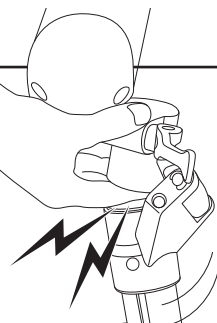


6 左手でハンドルポストを持ち、右手でフロントフォーク固定解除ボタンを押しながら、前輪を回転させます。



⚠ 注意

フォークの接合部に指を挟まないように注意してください。
図のように持つと、ロックが外れたときに指を挟む恐れがあります。



折りたたみと展開 (続き)

展開 (続き)

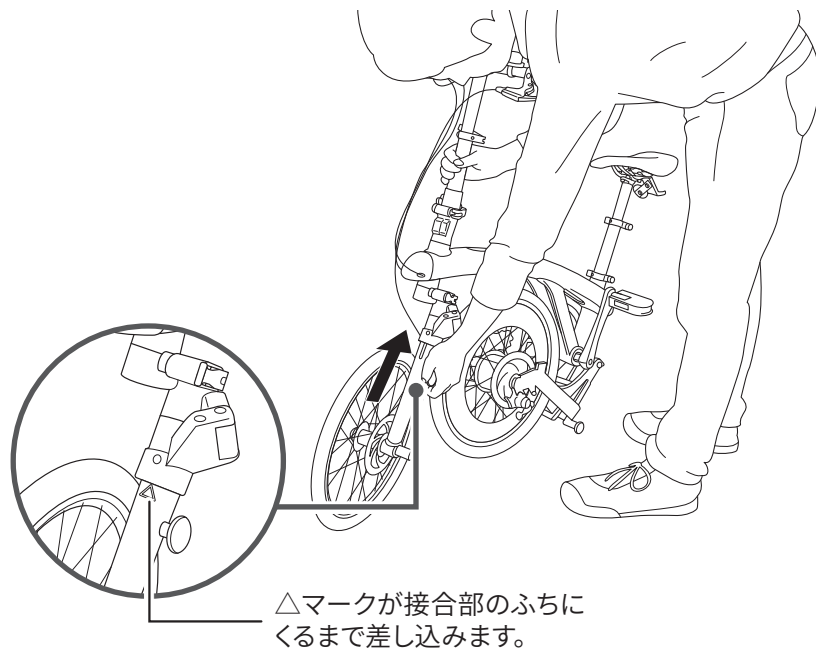
ウォーク モード



▶ ウェイト モード



- 7** フォークノブを持ちながらフロントフォークを奥まで差し込みます。

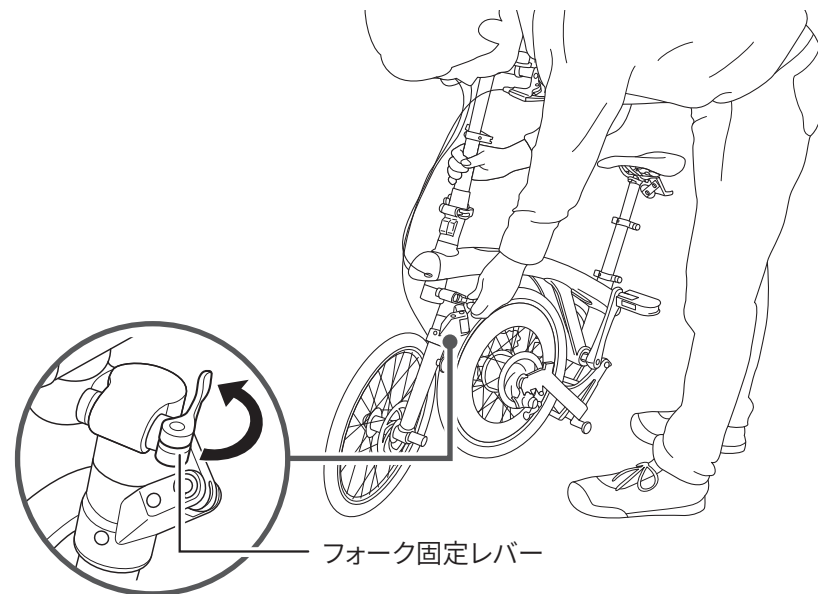


警告



フォークは奥まで確実に差し込んでください。
差し込みが不十分だと走行中に外れて事故の原因になります。

- 8** フォーク固定レバーを閉めます。



警告



カムレバーは自分がレバーを倒すことができる最大の力で閉めてください。

締め込みが弱いと、走行中に緩み、事故の原因となります。

(目安として、閉めたときにレバーの跡が手のひらにはっきりと残る程度の力が必要です)

折りたたみと展開 (続き)

展開 (続き)

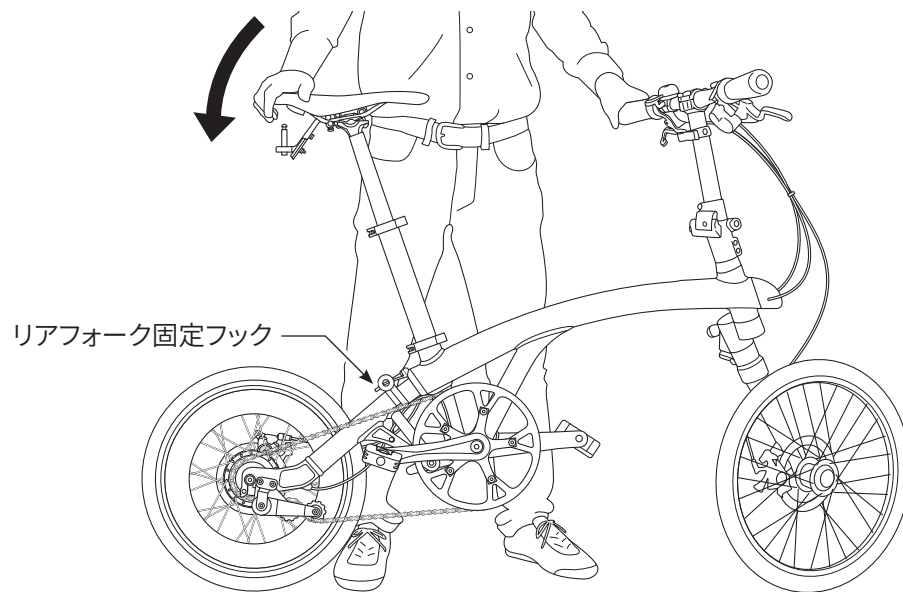
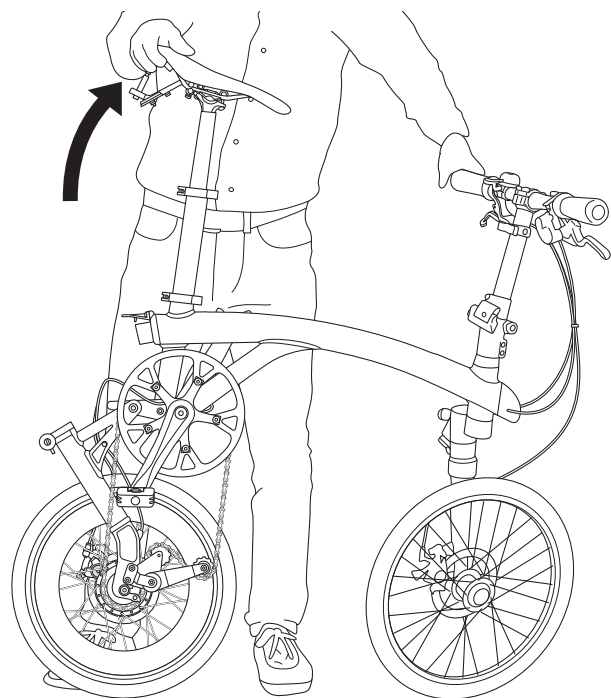
ウェイト モード



▶ ラン モード



- 1 サドルを持ち上げ、リアフォーク固定フックがはまるまで後輪を後方に回転させます。

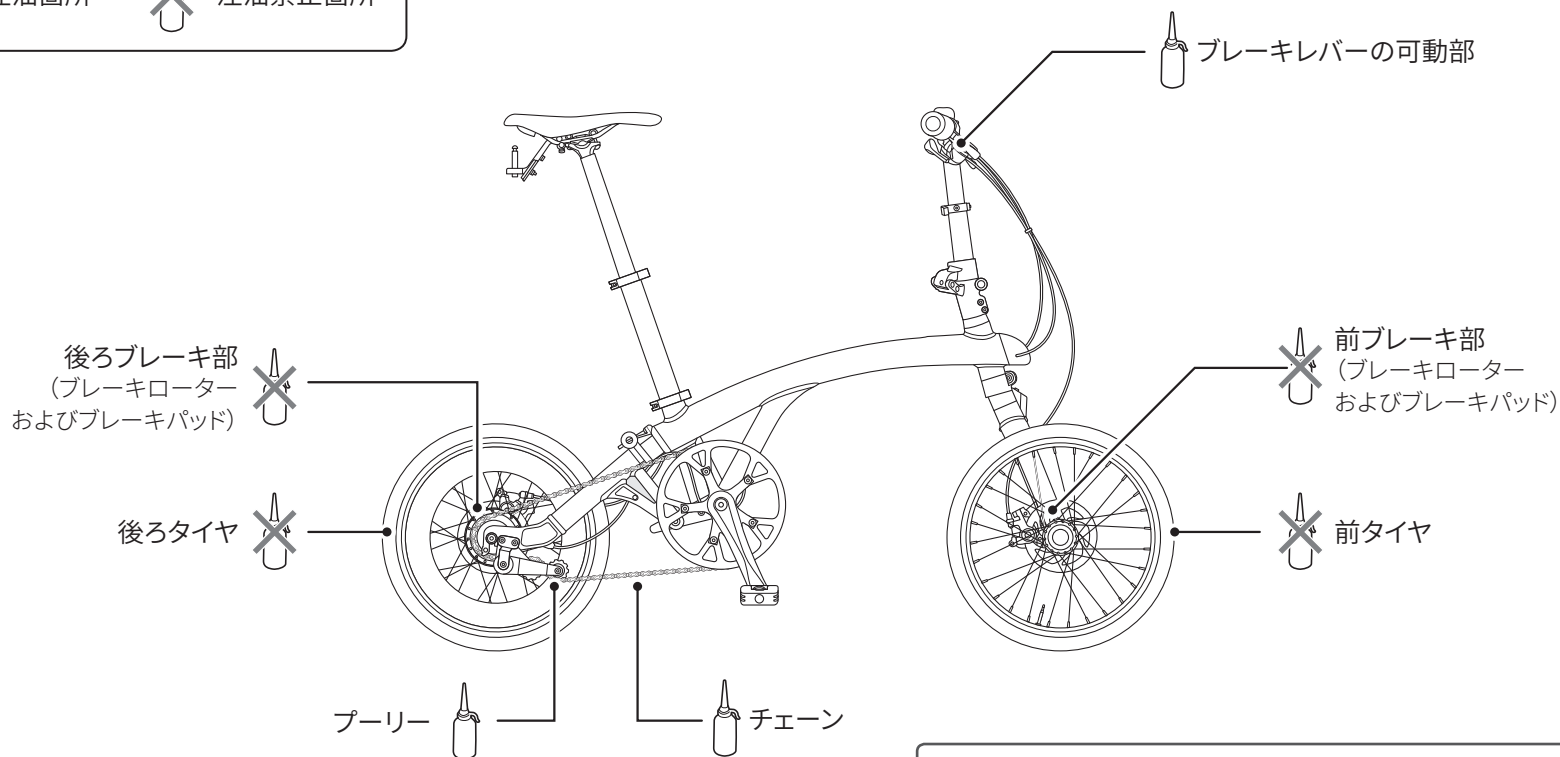
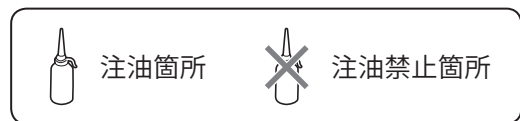


各箇所にゆりみ、ガタツキがないか確認してから走りましょう。

メンテナンス／保管／廃棄について

注油について

以下の場所に定期的に注油します。



お願い

- 必ず自転車用オイルを使用してください。
- 余分なオイルは拭き取ってください。

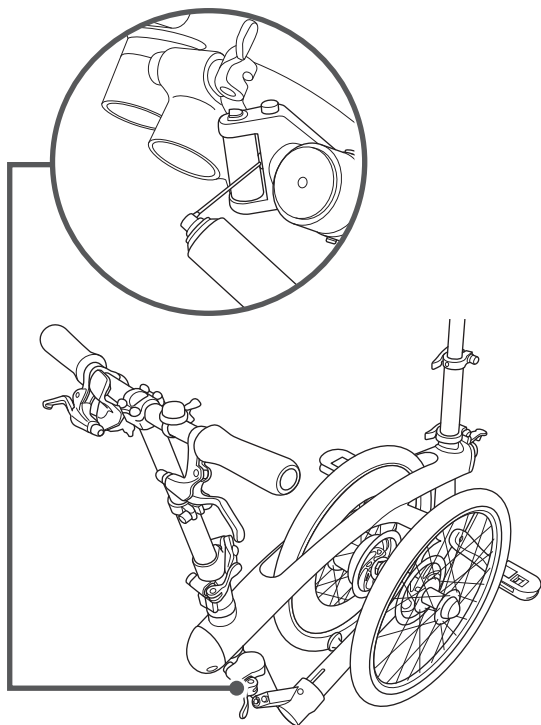
メンテナンス／保管／廃棄について (続き)

グリスングについて

ボタンやレバーの動きが悪くなってきたら、以下の箇所にスプレー式グリスなどを使用して塗布します。

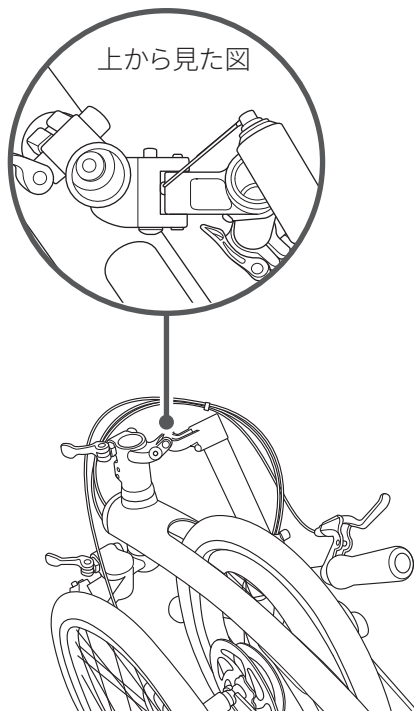
フロントフォーク固定解除ボタン

摺動部のボールにグリスを塗布します。



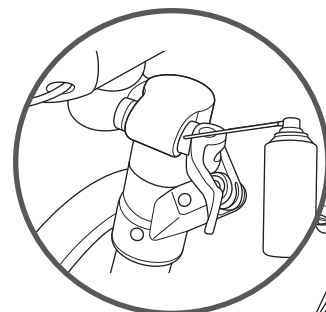
ハンドルロック解除ボタン

摺動部のボールにグリスを塗布します。



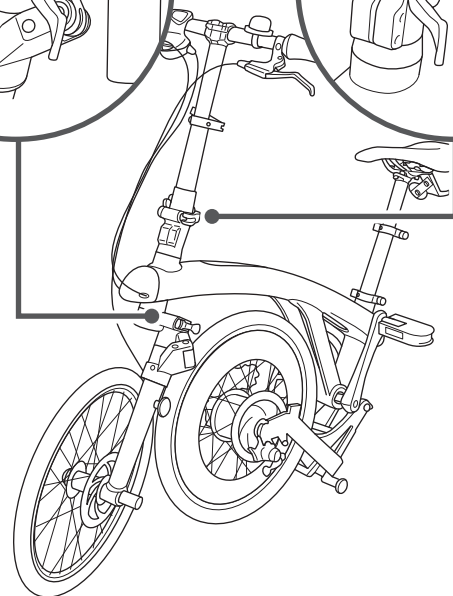
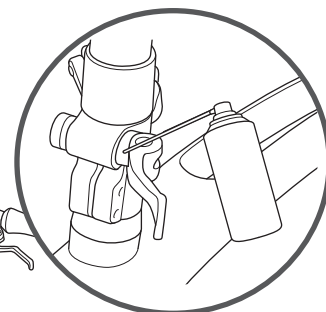
フォーク固定レバー

レバーを開き、プラスチック製パーツ（金色）の周囲にグリスを塗布します。



ハンドル固定レバー

レバーを開き、プラスチック製パーツ（金色）の周囲にグリスを塗布します。



メンテナンス／保管／廃棄について（続き）

日常のお手入れ

- 本体の汚れは、水を含ませたあと固く絞った柔らかい布などできれいに拭き取ってください。
- 汚れがひどい場合は、中性洗剤を浸した布で汚れを拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。

お願い ● 研磨剤を含む洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉、金属タワシなどを使用しないでください。
傷がついたり、変色したりする原因となります。

定期点検

使用開始後 2 ヶ月以内に販売店で点検を受けてください。

保管について

以下の場所に保管してください。

- 風通しがよく湿気の少ないところ
 - 平たんで安定するところ
 - 直射日光や雨つゆの当たらないところ
- 雨ざらしになるところは、さびの原因にもなりますので、なるべく避けて保管してください。

廃棄について

廃棄するときは、各自治体の指示内容に従って処理してください。

MEMO

MEMO

保証書

製品名	iruka
保証期間	ご購入日 年 月 日 から 1 年間
販売店	販売店名： ご住所： 電話番号：

保証規定

保証期間内に正常な使用状態で故障した場合は、お買い上げ日より1年間、無料修理もしくは不具合部品の交換を致します。ただし消耗部品および付属品は保証対象外です。

■ 保証期間内でも次のような場合は有償修理となります。

1. 本保証書をご提示されない場合。
2. 本保証書の所定事項の未記入、販売店・購入時の表示がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
3. お買い上げ後の輸送などによる故障、及び損害。
4. 火災、地震、水害、落雷などの天災ならびに、公害による故障。
5. お客様の不注意による損傷や不当な修理・分解・改造による故障。
6. 注意事項の指示に従わない使用による故障や劣化。
7. 故障の原因が本製品以外による場合。
8. 消耗部品の交換。

■ 修理を依頼される場合はお買い上げの販売店、取扱店へ本保証書を添えてご持参ください。やむを得ず送付される場合は送料をご負担ください。

■ 本保証書は再発行致しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

■ 本保証書は日本国内のみで有効です。(This warranty is valid only in Japan)

■ 本保証書にご記入いただいたお客様の個人情報は、修理・交換品の発送のみに使用し、それ以外の目的で使用したり、第三者に提供する事は一切ございません。

株式会社イルカ（iruka Inc.）

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 3-18-6 ストーリア神宮前 211

info@iruka.tokyo

2019-01